

じょいふる事業所自己評価シート（放課後等デイサービス）

令和7年度

職員による自己評価

保護者による評価

実施：令和8年2月 回収6名（回収率100%）

実施：令和8年2月 回収54名（回収率92%）

A環境面

1. 訓練室等スペース

50%確保されているとの評価だった。曜日による児童の人数の違いにより、多い日では十分ではないとの評価が見られた。

2. 職員の配置数

33%が適切であるという評価だった。職員の不足を感じる、現状可能な範囲でカバーし合っているとの評価であった。

3. 設備においてバリアフリー化の配慮

66%適切であるという評価だった。

B業務改善

4. 業務改善を進めるための参画

83%が評価していた。法人全体として業務改善委員会の設置が行われているという意見が多く見られた。

5. 保護者の意向を把握し業務改善につなげているか

100%の評価だった。

6. 自己評価結果の公開

50%が適切に公開しているという評価だった。半数が「分からない」という評価であったため、職員内にも公開していることの周知が必要である。

7. 外部評価について、

83%が外部からの評価を業務改善につなげていると評価している。

8. 研修の機会確保

100%が評価しており、研修により質の向上を図っている評価を得た。

C適切な支援の提供

9. 客観的分析による個別支援計画の作成

83%が適切にできているとの評価だった。

10. 標準化されたアセスメントツールの使用

67%が使用できていると評価している。非常勤の職員から「分からない」という評価が多く見られた。

11. 活動プログラムの立案

67%がチームで行うことが出来ていると評価している。「その日のリーダー職員に任せすぎてしまっている」という評価があった。

12. 活動プログラムの工夫

83%が固定化しないよう工夫していると評価している。

A環境面

1. 活動のスペース確保

93%確保されているとの評価だった。

2. 職員の専門性

94%が適切であるという評価を得られた。

3. 設備

76%がバリアフリー化の配慮がされていると評価していた。来所の機会が少ない保護者も多くいらっしゃることも原因と考える。

B児童への支援内容

4. 個別支援計画作成

100%客観的に作成され分かりやすく説明されているという評価だった。

5. 活動プログラムの工夫

94%工夫されているという評価だった。日々、フィードバックなどでプログラムの狙いや児童の様子を具体的に伝えるように心がけていることで評価に繋がったと考える。

C事業所からの情報発信

6. 利用者負担や支援内容の説明

100%丁寧な説明がなされたと評価。

7. 子どもの状況や発達課題での保護者との共通理解

100%できている評価であった。

8. 保護者面談や育児相談の支援

94%が適切に行われているという評価であった。

13. 課題設定に応じた支援内容

83%が出来ていると評価している。

14. 子どもの状況に応じた支援計画の作成

83%が出来ていると評価している。

15. 支援開始前の打ち合わせ

83%が出来ていると評価している。

16. 支援終了時の振り返り

83%が出来ていると評価している。

17. 記録の徹底、支援の検証・改善

83%が出来ていると評価している。

18. 定期的なモニタリングによる個別支援計画の見直し

83%が出来ていると評価している。

19. ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせた支援

83%が出来ていると評価している。

D 関係機関と保護者との連携

20. 相談支援のサービス担当会議への参画

83%が出来ていると評価している。

21. 学校との情報共有、連絡調整

83%が出来ていると評価している。

22. 医療的ケアの子どもの受け入れ、主治医との連携体制

16.7%が適切にできていると評価している。現在、医療的ケア児の受け入れをしていないため、「どちらともいえない」「分からない」の評価が多かった。

23. 就学前に利用していた幼稚園や保育園など、発達支援事業所との情報共有と相互理解

67%が出来ていると評価している。実際の事業所との直接の共有は少ないのではないかと評価であった。

24. 事業所を移行するときの情報提供

50%が出来ていると評価している。他事業所との電話や連携会議などでの情報共有はしているが、不十分と感じている職員もいるという評価であった。

25. 専門機関との連携や助言・研修の活用

50%が出来ていると評価している。研修に参加した後の活用が不十分であるという評価が見られた。

26. 障害のない子どもとの交流

16.7%ができていると評価している。障害児通所支援事業のため、交流の機会が少なくなっているという評価であった。

27. 地域自立支援協議会等への参加

67%が出来ていると評価している。参加したことがない職員や非常勤の職員から「分からない」という評価が見られた。

28. 利用者に関する保護者との共通理解

100%が出来ていると評価している。

9. 保護者会など保護者同士の連携

89%できている評価であった。保護者会のイベントを積極的に案内するなどしたことにより、保護者同士のつながりの機会の確保がされていることへの理解に繋がったと考える。

10. 苦情に対する対応

91%が適切に対応していると回答している。

11. 意思疎通や情報伝達のための配慮

100%が適切であると評価している。

12. 情報発信について

98%が適切であると評価している。コドモンにて連絡を密にしていた結果と捉える。

13. 個人情報において

94%は十分に注意しているとう評価であった。

D 非常対応

14. 緊急時対応、防犯、感染症対応について、

96%が適切に対応していると評価している。

15. 非常災害の訓練

100%が適切に行われていると評価している。

29 ペアレントトレーニング等の保護者支援

67%が出来ていると評価している。非常勤の職員から「分からない」という評価が見られた

E 保護者への説明責任

30. 運営規定、支援内容、利用者負担額の説明

67%が丁寧な説明を行っているという評価している。非常勤の職員から「分からない」という評価が見られた。

31. 保護者からの相談対応の支援

100%が出来ていると評価している

32. 保護者同士の連携の支援

67%ができていると評価している。保護者会の計画、案内はしているが参加者が少ないという評価が見られた。

33. 苦情対応

83%できていると評価している。非常勤の職員から「分からない」という評価が見られた。

34. 情報発信

67%できていると評価している。非常勤の職員から「分からない」という評価が見られた。

35. 個人情報の留意

100%できていると評価している

36. 利用者情報伝達の配慮

67%出来ていると評価している。非常勤の職員から「分からない」という評価が見られた。

37. 地域に開かれた事業所運営

33%できていると評価している。障害児通所支援事業所という特性上、交流の少ない現状についての評価と考えられる。

38. マニュアルの策定と周知

67%できていると評価している。非常勤の職員から「分からない」という評価が見られた。

39. 非常災害に備えた訓練

100%できていると評価している。

40. 虐待防止の研修・適切な対応

83%できていると評価している。虐待防止委員会を設置し、年数回研修を設けていることが評価につながった。

41. 身体拘束の対応と説明

83%できていると評価している。虐待防止委員会を設置し、年数回研修を設けていることが評価につながった。

42. 食物アレルギーの対応

100%できていると評価している。

43. ヒヤリハット事例集の作成と共有

83%できていると評価している。ヒヤリハット集といった明文化されたものの存在を知らないという記述があった。一方で、ヒヤリハットの事例についての共有はされているとの評価であった。」

E 満足度

16. 通所を楽しみにしている

評価は 83%であった。放課後教室の利用者の満足度は高い一方で、個別支援や学習支援の利用者は一定数緊張度がある環境であることが要因として挙げられる。

17. 支援への満足

評価は 100%であった。保護者の支援に対する満足度は得られていると思われる。

事業所内での分析

【共通点】

環境面：職員の専門性についてはともに高い評価が多かった。施設のバリアフリー化については、普段来所されていない保護者に向けた説明が不十分であると考えられる。面談時に施設のバリアフリー化を紹介していく必要があると考えている。

児童への支援内容：職員・保護者様ともに評価が高い内容が多かった。一方、非常勤の職員から「詳しく分からない」との回答が多く見られた。事業としての支援に対する方針や取り組みについて周知するタイミングを検討していく。

事業所からの情報発信：保護者からの評価と職員からの評価ともに前年度と比較し、評価が上がっている。保護者同士の交流や保護者の悩みについて助言・援助をする保護者会の案内を積極的に行っていたことが評価につながったと考えられる。職員内でも研修内容に応じて参加してほしい保護者への案内を積極的に行うなど共通理解をしたうえで対応することができたことで職員の評価も高かったと考えている。今後は、保護者会の内容の希望を事前に聞き取り調査をするなどして求められる内容を抽出し興味を持って参加できるもので提供していく。

非常対応：大多数が適切に情報共有出来ていると評価している。年2回長期休みで行っており、緊急連絡の練習連絡を行うなど、保護者に実施していることが伝わる手法を取れていたことが大きな要因と考えている。一方で、個別支援のみの利用者の訓練が不十分になってしまう場面もあったため、訓練が均等に行えるように対策を講じる必要がある。

分析・検討してみたて…

事業所の強み

- ・職員に専門性がある。
- ・支援前後でのケースの打ち合わせ、振り返りを行うことで支援の方針を共通理解することができている。
- ・医療、学校、家庭や他機関（療育センター、児童相談所、区行政など）との連携が実践的に行なっている。
- ・法人内に保育所等訪問支援があり、学校での問題行動にも連携対応できる。
- ・看護師、教員などの有資格者がいる事業所である。

事業所の改善点

- ・施設の訓練スペースの確保ができるように環境の整備を行っていく。
- ・非常勤の職員への情報共有が不十分であるという結果がであったため、中間ミーティングなどを行い、事業所全体で支援の方針や運営について共通理解を図っていく。
- ・他事業所や行政の連携が見えてこないという評価があったため、連携内容の共有を積極的に行っていく、事業所内にも周知していく。

事業所の改善への取り組み

環境面：

- ① 活動スペースのバリアフリー化の配慮を確認していただける機会を設けるため、施設見学会や保護者を定期的に行い事業所に足を運んでいただけるような機会を設ける。個別支援計画面談時には施設のバリアフリー化の配慮について書類を配布する。

支援内容：

- ① 非常勤の職員を含めて支援の方針や運営状況、今後取り組んでいく必要があることの検討を行う会議を設定していく。
- ② 他事業所や行政機関などとの連携を積極的に行っており、ミーティングで内容の周知を事業所内で行っており、事業所全体で共通理解を図っていく。
- ③ 連絡アプリ（HUG）からの連絡内容をしっかり確認し、育児の不安に気づき、職員が育児や相談の面談を実施するなどして保護者とのコミュニケーションを取りやすい関係性を継続して作っていく。

情報発信：

- ① 保護者会、談話会、交流会を定期的に継続できるように年間計画を立案し、実施する。
- ② 保護者会、談話会、交流会に保護者が参加しやすいように早めの周知や興味を持っていただける環境設定になるように工夫する。
- ③ 広報誌による活動報告を継続する。

非常対応：

- ① 緊急時対応マニュアル、防犯、感染症対応マニュアル策定、保護者への説明や周知を徹底できるような活動方法を見直し実施する。
- ② 避難訓練や引き取り訓練の実施を放課後教室のみにならないよう個別支援、学習支援の場でも行う。また保護者も避難訓練に参加できるような方法を考え実施する。

その他：

- ① 本部との連携を密に行い、事業所と本部の方針に齟齬が生じないようにしていく。また、本部の意向を管理者から職員に共有することで、職員間での温度差が生まれないようにしていく。
- ② 各事業所内だけでなくそれぞれの事業所間において連絡、報告、相談を職員それぞれが意識し日々活動する。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

保護者の方から評価を受けることで、改めて当事業所の強みや改善点を知ることが出来ました。保護者の方からの評価を高くいただき、今後も支援にご満足いただけるように尽力してまいります。職員は利用者様のことを理解し保護者の方へ伝える工夫や努力を継続した結果、保護者様との信頼関係が築けていると確認することができました。

また、事業所の組織やシステム作りなど弱みの部分を踏まえて改善を図り、子どもや保護者の方々と共に健康的な生活が送れるようより支援の質の向上を目指していこうと考えております。

事業所名 ACO 放課後等デイサービスじょいふる

担当者 磯部 祥大